

執 筆

千 明 雅 尚 (有) クリエイト

平成8年度研修研究センタープロジェクト研究
「短期課程用の教材開発(生産管理)」企画開発委員

千 明 雅 尚 (有) クリエイト

市 川 和 夫 市川経営ブレイン

本 多 薫 産能短期大学

更 科 利 夫 職業能力開発大学校研修研究センター開発研究部

秩 父 和 恭 職業能力開発大学校研修研究センター開発研究部

はじめに

社会情勢の変化につれ、企業のとりまく環境は著しく変わり、今までとは異なる状況がいたるところで発生している。今日、このような状況のなかで企業が成長・発展していくためには従来にも増して管理者の高い能力が求められている。今後、企業にとって管理者の能力開発は重要な課題となっているといえる。

しかし、現状では企業の人材育成体系のなかで、管理者教育については十分な効果をあげている事例は残念ながら非常に少なく、管理者自身の自己啓発などに頼っているのが実状のように思われる。

このようなことから、当センターでは平成7年3月にテキスト「管理者教育」を開発した。この「管理者教育」は、管理者に求められる知識・技法等をオールラウンドに編したもので、幸いにも企業の方々から高い好評を得ることができた。

本教材は、テキスト「管理者教育」の姉妹編に相当するもので、リーダーシップに焦点をしぼり、公共職業能力開発施設で行っている在職者向けセミナー（研修）の多様化に対応できるようにし、新しい形式が特徴となっている。すなわち、日程・時間・その他さまざまな制約があっても、その制約に対応できるよう開発した。また、最近のセミナーの形態が、講師が取り仕切る「知識・情報提供型」から受講生が主体となって考える「討議・演習型」になりつつあることから、今後のセミナーの方向を踏まえて開発したことも本教材の特徴である。

さらに、本教材は「講師用」と「受講者用」と2分冊にして利用しやすいよう作成した。「講師用」は指導書の性格をもたせ、『事例』の「ねらい」や「標準解答」を付して、講師が指導しやすいよう工夫してあるなど市販の一般図書でも類例がないユニークな教材となっている。

本教材は、もちろん単独でも十分利用できるが、テキスト「管理者教育」と併せて利用することにより、より効果が期待できると考えられる。本教材が企業の方々に利用され、管理者の人材育成に役立つことを念願するものである。

最後に、本教材の開発にあたり貴重なご意見・ご協力をたまわった当プロジェクト研究の企画開発委員の諸先生とご執筆いただいた先生に深く感謝の意を表すものである。

平成9年3月

職業能力開発大学校

研修研究センター

本教材の利用のしかた

1 本教材とテキスト「管理者教育」との関連

本教材は、テキスト「管理者教育」（職業能力開発大学校研修研究センター編：平成7年3月刊行）の姉妹編である。「管理者教育」は、管理者に求められる必要な知識・技法等を体系的に網羅し、全体的なことを学習する内容であり、本教材は「管理者教育」のなかの「リーダーシップ」をさまざまな事例によってよりくわしく学習し、討議し、思考すること等により管理者としての実力を身につける内容となっている。したがって、総論と各論の関係ともいえるものである。

本教材単独でも利用できるし、また十分理解できるが、両教材を併せて利用することによって、より効果が期待できるといえよう。

2 本教材の目的

本教材は、公共職業能力開発施設で行っている在職者向けのセミナー・研修・講習会等（以下「能開セミナー」という。）で使用されることを目的としている。

3 本教材の内容・対象者

本教材の内容は、リーダーシップについてのさまざまな事例をとりあげ、この事例を基にグループ討議し、考えをまとめることによって企業の管理者としての能力を高められるようになっている。

本教材の対象とする管理者とは、事務・営業・製造部門等の中間管理職者や管理業務に従事している係長・リーダー・チーフなどの中堅クラスの人、管理業務は経験ないがこれから管理職になる人などである。

4 本教材の構成

本教材は、『リーダーシップ事例研究』（Ⅰ）（Ⅱ）の2分冊からなっている。

1冊は「指導者用マニュアル」で、講師用のものである。1項目ごとに「学習のねらい」を付し、また1事例ごとに「事例研究ポイント」を設けてある。「事例研究ポイント」では、事例で学んでほしいポイントや標準的な考え方（標準解答ともいえる。）を示し、解説してあるので受講者を指導するうえで参考となるであろう。

2冊目は「受講者用事例研究集」で、受講者が利用するためのものです。「事例」のほか、設問と解答スペースを設けてあり受講者の利便を図っている。

「事例」は内容に応じて11の項目に分けられ、1項目ごとに3つの事例をとりあげています。これらの事例はそれぞれ学習のねらいが異なっている。

5 利用のしかた

本教材は、さまざまなセミナーに利用できるよう編み込まれているので、基本的にはセミナーの形態・形式に合わせて利用するとよい。本教材を開発するにあたって、標準的な利用方法として「午前は1～3時間の講義」、「午後は2～4時間で1～3事例についての討議・発表・講評・整理まとめ等」を一応の目安にした。この場合、「どの事例を選ぶか」「事例の組合わせをどうするか」「1事例にどのくらい時間をかけるか」などは特に順番や決まりはないので講師が決めてもいいし、受講者の意見で決めても差し支えない。

セミナーの形態が多様化していると思われるので、日程・時間・講師・その他さまざまな制約や事情、さらには受講生の要望に合わせてフレキシブルに利用されることをお勧めしたい。

また、セミナーの時間に余裕がない場合などは、例えば、討議のみで終わっても受講者が「解答」を記して講師に提出し、後日に講師から添削を受けるような通信式利用の仕方も可能である。

いずれにしても、本教材はテキスト「管理者教育」と一体化したものであるため、グループ討議の前に「管理者教育」を予習すると、事例の意味するところがより理解でき、深みのある討議ができる。また、討議の後に「管理者教育」を復習すると一層理解が高まることが期待できよう。

教材情報資料 No. 59
・ 管 理 者 教 育
リーダーシップ事例研究 (I)
【指導者用マニュアル】

発 行 平成9年3月

発行者 職業能力開発大学校
研修研究センター

〒229-11 神奈川県相模原市橋本台4-1-1

電話 0427-63-9047 (広報普及室)

印 刷 (株) ワークワン